

(案)

直方市スポーツ推進計画

気軽に楽しめるスポーツ環境の整備と
スポーツをとおして元気で活力のある
市民生活の構築を図る



直方市スポーツ推進計画の策定にあたって



平成30年7月豪雨により、被災をされました皆様に対し、心よりお見舞い申し上げます。

スポーツは体力向上や健康増進の源であり、青少年の健全育成や市民の皆様
の生きがいがづくり、地域コミュニティの形成など様々な分野で貢献できます。

自らが行うだけでなく、「みる」「参画する」などかかわり方も多様化し、市
民一人ひとりの環境の整備をすることは大変重要と考えられます。

「だれでも、いつでも、どこでも」生涯を通してスポーツに親しめる社会の
実現のため、課題やニーズに対する積極的な対策を行い、総合的に進めていく
ことが必要となります。

スポーツの魅力で市民生活をより豊かにしていくことを目指して、各団体の
皆さんと連携しながら、本市のスポーツ施策の推進に努めてまいります。

市民の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

結びに、この計画策定に当たりまして、貴重なご意見やご提言をいただきました
直方市スポーツ推進審議会の皆様をはじめ、ご協力をいただいた多くの方
に心より感謝申し上げます。

平成31年 3月

直方市教育長 豊 寛 慎 司

目 次

第1章 基本的な考え

1	計画の趣旨	1
2	計画の理念	2
3	計画の位置づけ・期間	3

第2章 運動・スポーツの環境

1	本市の状況	5
2	運動・スポーツの状況	12
3	施設状況について	20

第3章 基本的方向性

1	情報提供の拡充	26
2	子供が参加できる環境づくり	27
3	障がい者・高齢者の運動・スポーツの拡充	29

第4章 計画の展開

1	推進体制	32
2	計画の進行管理	32

第1章 基本的な考え

1 基本計画の趣旨

少子高齢化、人口構成の変化などに伴う人間関係の希薄化は全国的な現象であり、本市も同様な傾向にあります。このような社会環境の変化は運動・スポーツをめぐる市民生活にも影響を与えています。

子どもについては、生活の利便性の向上、少子化の進行、地域での遊び場の減少などの理由により運動・スポーツ離れにつながっている一面があります。

さらに、日常的に身体を動かす機会の減少などにより、体力低下を引き起こしています。未来を担う子供達が生涯を通じ心身ともに健康な生活を送るために、できるだけ早い段階で、運動・スポーツの楽しさを理解するとともに、体力向上を継続的にできる環境づくりが望まれています。

一方、成人（高校生以上）については近年、体育施設利用者数の増加が見られ、高齢者の利用については、グラウンドゴルフ、ゲートボール、卓球、トレーニング室の活用などで実践されています。

また、障がい者スポーツにおいて、県民体育大会での種目導入や、本市ではボウリング大会や運動会などの開催があります。

今後は、市民一人一人がそれぞれのライフステージにおいて健康づくりやニュースポーツ、レクリエーション活動を行う仕組みづくりの構築が必要となります。平成23年制定の「スポーツ基本法」ではスポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは全ての人々の権利とされ、平成24年には「スポーツ基本計画」が策定されました。

この中で運動・スポーツが青少年の健全育成や地域社会の再生、心身の健康増進、地域人間関係の連携など多面にわたる役割を担うとされています。2019年には「ラグビーワールドカップ」、2020年には「東京オリンピック・パラリンピック」が開催となり、運動・スポーツへの関心や期待も高まってい

ます。本計画では、スポーツ立県である「福岡県スポーツ推進計画」を参酌し、3つのステージからなる施策を推進する『直方市スポーツ推進計画』を策定するものです。

2 計画の理念

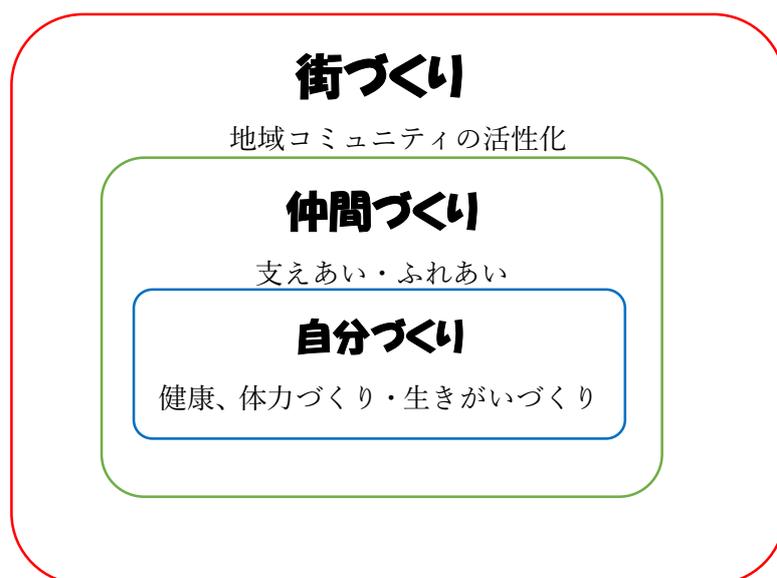
(1) 心と体・人と地域

市民が様々な形でスポーツに親しみ、楽しさと感動を分かち合い、地域社会の中で健康でいきいきとした生活を送ることができる活力ある直方市の実現を目指し、「心と体・人と地域」を基本理念として掲げていきます。

(2) 目標

スポーツの推進は、競技力の向上や健康・体力づくり、生きがいづくりにとどまらず、仲間づくり、活力のある地域づくりから街づくりへと大きく貢献することが期待されます。

スポーツ・運動を通じ、「自分づくり」の感動が、支えあい・ふれあいによる「仲間づくり」へと広がり、地域コミュニティの活性化につながる、「街づくり」へと関連する輪づくりを推進の目標といたします。



3 計画の位置づけ・期間

(1) 計画の位置づけ

スポーツ基本法第10条「地方スポーツ推進計画」の規定に基づき策定をするものです。

第5次直方市総合計画後期事業計画（平成28年度～平成32年度）との整合性を図り、スポーツ振興の方向性を示すものとして位置づけます。

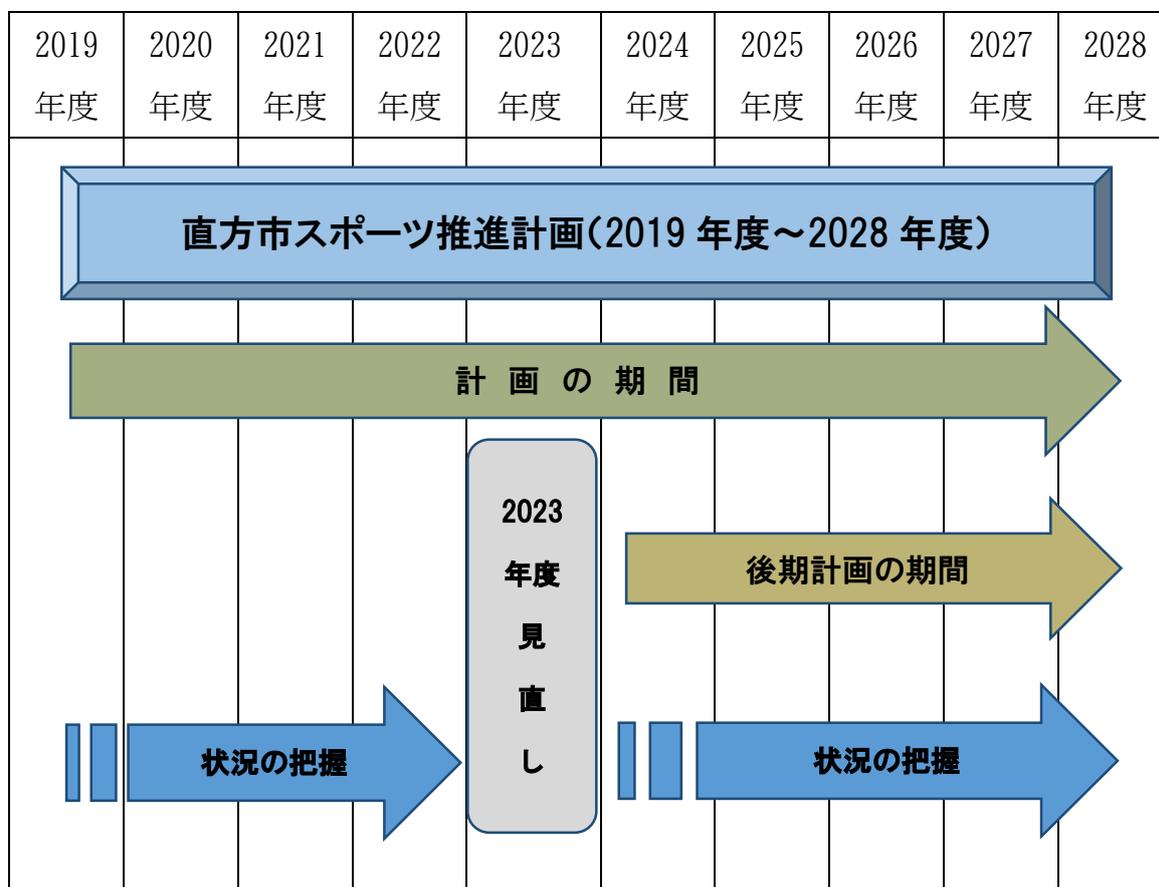
(2) 計画の範囲

無理なく長続きし、楽しく比較的簡単なルールで手軽に楽しめるニュースポーツ、健康づくりを目的としたウォーキング・軽運動、自然に親しみながらの野外活動、スポーツ・レクリエーション活動からトップアスリートを目指す競技スポーツまでを対象といたします。

(3) 計画の期間

本計画は2019年度から2028年度までの10年間を計画期間とします。

なお、本計画に基づく施策実施については、社会・経済情勢の変化等に対応するよう適時その進捗状況の把握に努めながら、計画期間の中間年である2023年度に見直しを図るものとします。



第2章 運動・スポーツの環境

1 本市の状況

【地理的な状況】

政令市である北九州市及び直轄3市町、飯塚地区、田川郡等筑豊都市圏と隣接し、都市機能や文化交流を行ってきました。遠賀川・彦山川・犬鳴川や雄大な福智山に抱かれ自然豊かな景観となっており、また、国道200号バイパスを経由して福岡・北九州都市圏へのアクセスにも優れています。

【人口の状況】

平成27年10月1日現在の国勢調査による本市の人口は57,146人で平成22年の同調査より540人減少しました。同調査の65歳以上の人口は17,941人であり、年齢別人口の割合で65歳以上は31.5%で、平成22年に比べ3.9ポイント増加となっており、少子高齢化の傾向が今後は更に進行することが考えられます。スポーツを通じ将来を担う子供達の育成や高齢者の健康維持の増進を図り、活力ある地域社会を築くことが求められます。

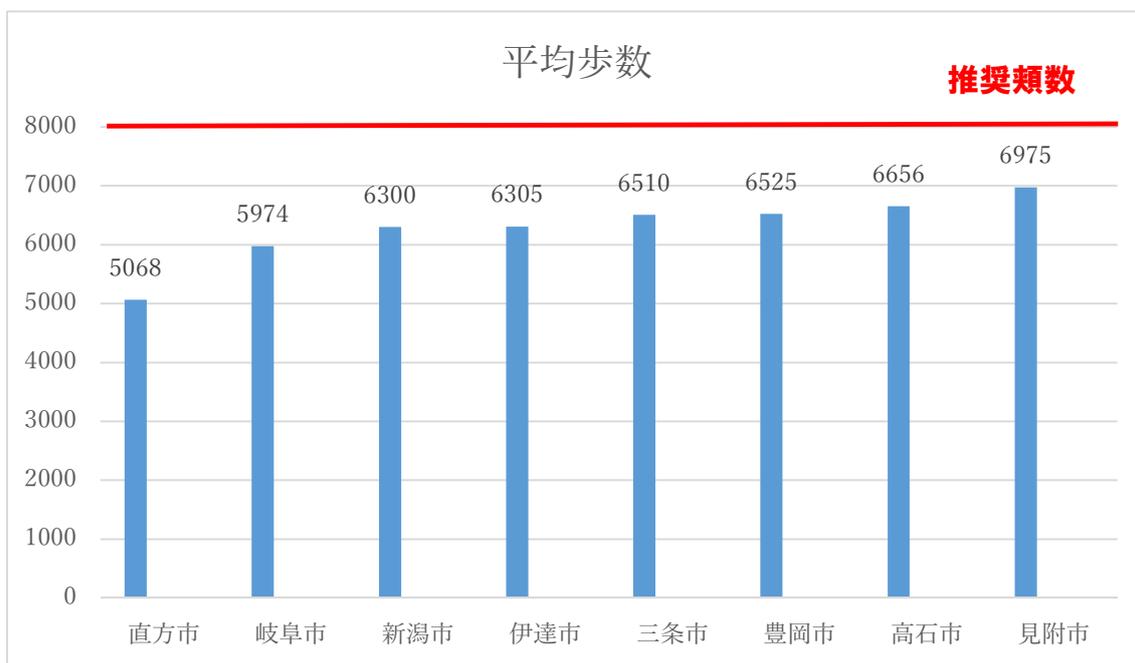
(資料・統計直方平成29年度版)

【運動の状況】

平成26年3月の市民調査分析によると、市民の1日あたりの平均歩数は約5,000歩でありSWC（※スマートウエルネスシティ）7自治体と比較し最も低い数値となっています。(図1) 21世紀の健康づくり運動(健康日本21:厚生労働省)報告によると歩くことを中心とした身体活動量を増加させることにより生活習慣病の危険性を減少させることが期待されます。また、「定期的に運動を実施する意図」が有る者は77%に上っていますが、運動の実施意図があるにもかかわらず十分な運動ができていない市民が多数を占めていることが明らかになりました。(資料・直方市健幸都市推進計画平成25年~30年度)

※少子高齢化・人口減少が進んでも地域住民が「健幸(身体面の健康だけでなく生きがいを感じ、安心安全で豊かな生活を送れること)」でありつづけ、そこで暮らし健幸になれる「まち」を意味します。

図1 直方市及びSWC 7自治体における1日あたりの平均歩数



※伊達市（福島県）伊達市・三条市・見附市（新潟県）豊岡市（兵庫県）高石市（大阪府）

○ 60歳以上の社会参加状況と健康の状態

社会活動の参加状況の有無別に健康状態をみたところ下記の表になります。

	7市60歳以上 (3,058人)	直方市 60歳以上 (183人)	社会活動参加	
			あり (154人)	なし (29人)
腰痛(%)	11.0	10.7	9.9	14.8
膝関節症(%)	8.7	12.5	12.0	15.4
低体力(%)	17.0	16.4	11.3	44.4
運動実施の 意図がある(%)	74.3	81.4	83.1	72.4
8000歩以上(%)	26.0	12.7	12.9	0.0

※60歳以上のデータ

※社会活動参加なし=地域、学習、個人、収入のある活動の全てに参加していない者

(資料・直方市健幸都市推進計画平成25年~30年度)

○日常の移動手段・自動車利用時間

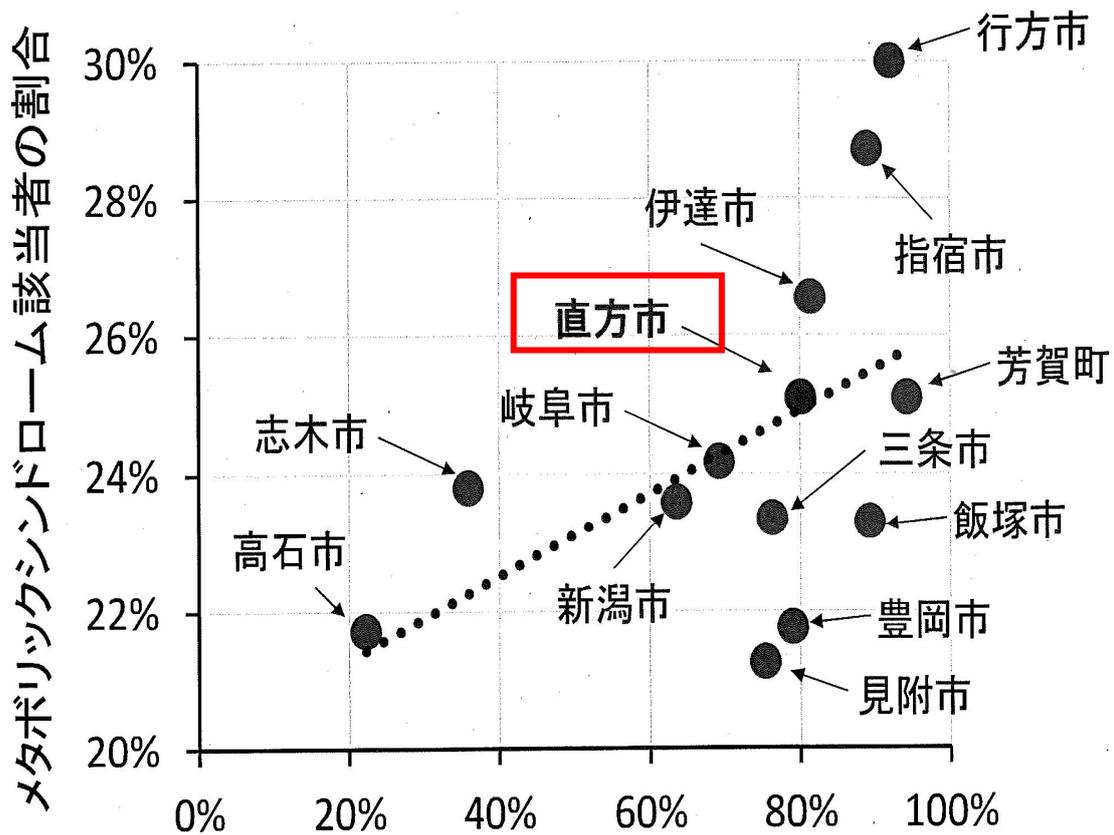
日常の主な移動手段として、車・バイクを利用する市民の割合は下記の図2とおりに80.1%になります。

車、バイクへの依存度が高くなると、生活習慣病の増加を生じさせる要因メタボリックシンドロームの増加にも繋がります。

日常的に自らの体を動かし、自らの意志で運動に親しむことが求められます。

図2

SWC13 自治体における車・バイク利用率とメタボリックシンドローム該当率の関連性



主な移動手段が 車 ・ バイクである割合

(資料・直方市健幸都市推進計画平成25年～30年度)

【市民意識調査・平成 29 年度】

スポーツ・レクリエーション活動参加状況

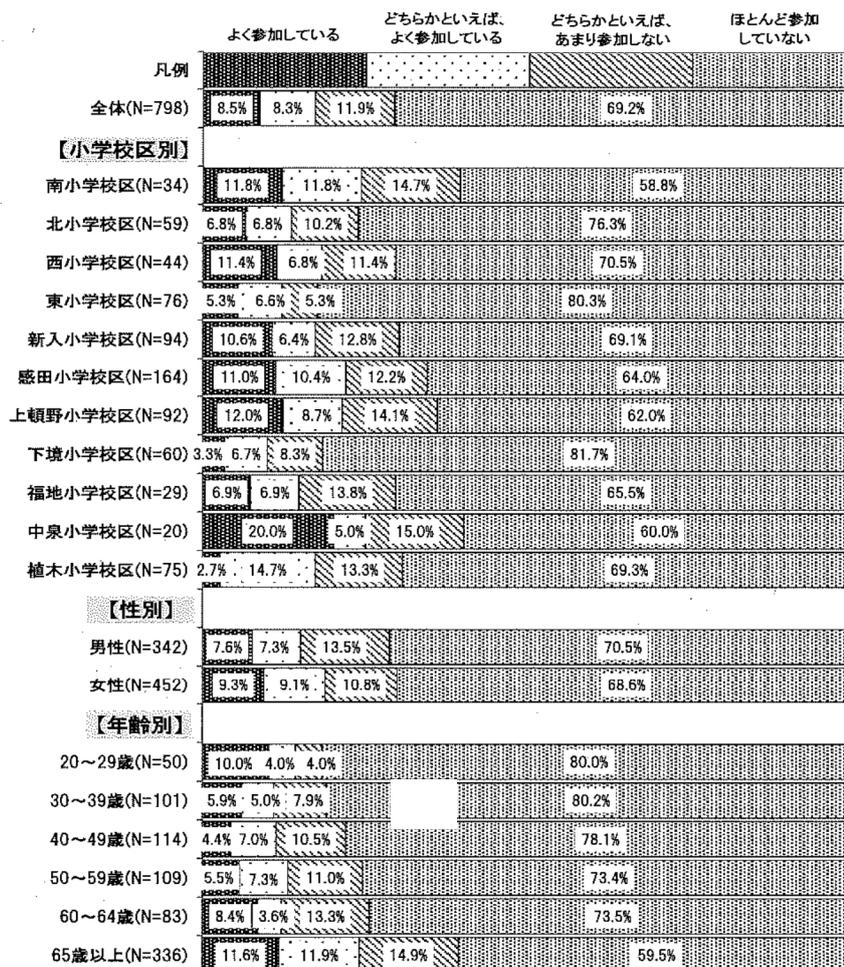
問 56. あなたは、スポーツやレクリエーション活動（運動教室、スポーツサークル、地域サークルや友人とのスポーツ活動・個人のスポーツ活動、地域等のレクリエーション活動など）に参加されていますか。（○印 1 つ）

スポーツ・レクリエーション活動参加状況については、全体では「ほとんど参加していない」が 69.2% を占め最も高くなっているが、「よく参加している」は 8.5%、「どちらかといえば、よく参加している」（8.3%）と合すると 16.8% が『参加している』と回答している。「どちらかといえば、あまり参加しない」は 11.9% で、「ほとんど参加していない」と合計して約 8 割が『参加していない』と回答している。

小学校区別では『参加している（合計）』の割合は、中泉小学校区などで高い。一方、東、下境小学校区では、『参加していない（合計）』の割合が高くなっている。

性別では、女性で、『参加している（合計）』割合がやや高いが、大きな差は目立たない。

年齢別では、『参加している（合計）』割合は、65 歳以上で高くなっている。20～30 歳代では、『参加していない（合計）』の割合が他の年齢層を上回っている。



日頃からの「健康づくり」について

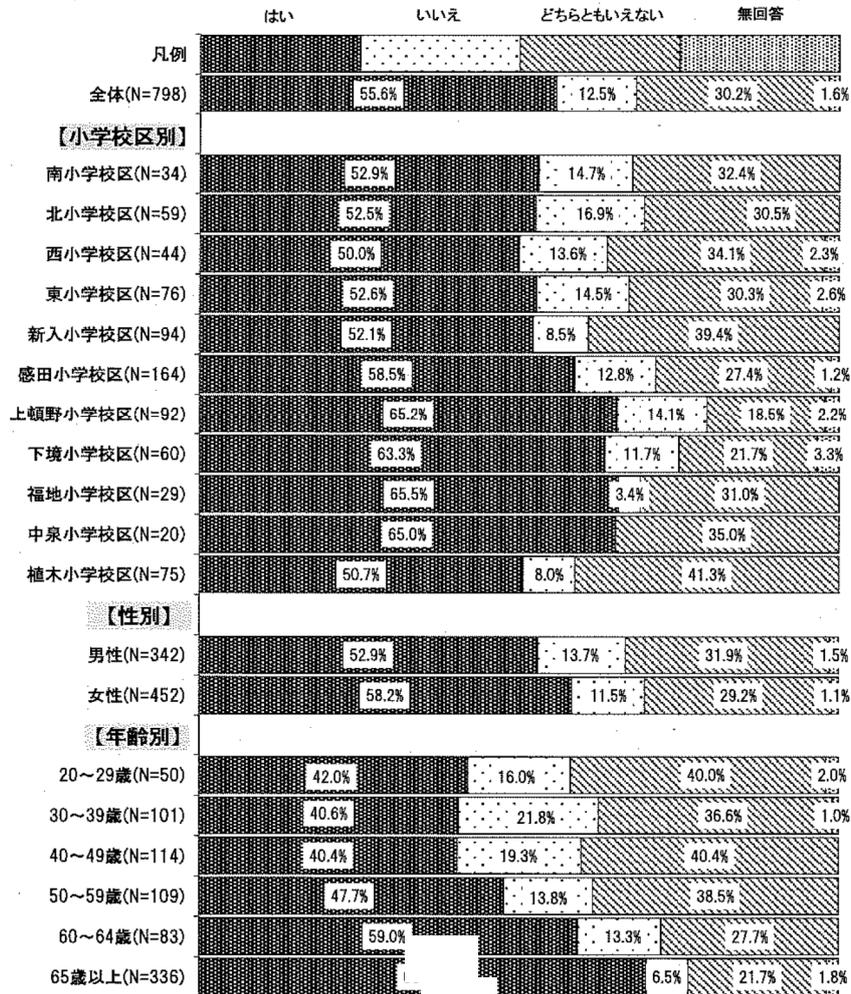
1. 健康づくりの有無

問 49. あなたは、日頃から、健康づくりのために、なるべく体を動かしたり、食事に気を配っていますか。(○印1つ)

健康づくりの有無については、全体では55.6%が「はい」と回答し、「いいえ」は、12.5%にとどまっている。

小学校区別では、特に、上頓野、福地、中泉小学校区で「はい」の割合が高く、北小学校区などでは「いいえ」の割合が他に比べ高くなっている。

性別では、女性の方が「はい」の割合が若干高く、年齢別では、60歳以上で「はい」の割合が高い。



(資料・直方市まちづくりのための市民意識調査平成29年度)

◎全国体力・運動能力、運動習慣等調査（平成 30 年 2 月スポーツ庁）及び本市の小中学校のデータ（平成 29 年度）は下記のようになっております。

【1 週間の総運動時間】・・・体育の授業を除く

全 国 小学生	1 週間の総運動時間が 60 分未満	本 市 小学生	1 週間の総運動時間が 60 分未満
男子	6.4%	男子	5.8%
女子	11.6%	女子	18.3%

全 国 中学生	1 週間の総運動時間が 60 分未満	本 市 中学生	1 週間の総運動時間が 60 分未満
男子	6.5%	男子	8.2%
女子	19.4%	女子	23.4%

【運動やスポーツの好き・嫌い】

全国小学生	好き	やや好き	やや嫌い	嫌い
男子	73.3%	20.0%	4.8%	2.1%
女子	56.5%	30.9%	9.1%	3.6%

本市小学生	好き	やや好き	やや嫌い	嫌い
男子	73.3%	20.4%	4.4%	1.9%
女子	56.2%	31.8%	8.8%	3.2%

全国中学生	好き	やや好き	やや嫌い	嫌い
男子	62.9%	25.8%	7.3%	4.0%
女子	47.0%	31.5%	14.2%	7.3%

本市中学生	好き	やや好き	やや嫌い	嫌い
男子	69.0%	18.8%	8.6%	3.6%
女子	45.2%	31.0%	17.6%	6.2%

生活スタイルの変化やゲーム、スマートフォンの普及などで運動時間が減少していることは否めませんが、運動・スポーツが好きな子供は多くいます。

そのため、活動する場へ導く、参加機会の情報提供の取組が重要になります。子供を育てることで周りの大人・市民を巻き込み、将来、運動習慣のある人材育成を行うことが必要と考えます。

【今後望まれること】

現代社会は車への依存が生活の中に溶け込んでおり、車(バイク、バス等)が必要不可欠となっています。

かつては、地域の中に小規模小売店が存在し、日常必需品の買い出しも徒歩、自転車が主流でしたが、今や車が一個人に1台の時代を迎え、近距離の移動も自らの足で動く事が少なくなりました。

時間に余裕を持ち、計画的に自らの「足」で動くことを心掛け、単発的なイベント等ではなく、毎日のリズムの中に取り入れていくことが必要となっています。

調査結果によると、全体でスポーツ・レクリエーション活動に「ほとんど参加していない」が7割近くを占めており、年齢別にみると、20～64歳代まで「どちらかといえば参加しない・ほとんど参加しない」が8割を上回っています。

また、健康づくりのために「気を配っている」との回答が5割を下回っており、参加の状況は決して良いとはいえません。

このため、運動・スポーツ、レクリエーションは健康づくりに繋がることから、参加をしていない市民をいかに参加させるかが課題と考えられます。

2 運動・スポーツの状況

(1) スポーツイベント・教室などの状況

事業主体【市・スポーツ推進委員協議会・市青少年育成市民会議・わくわくクラブ】

○カヌー川下り（遠賀川、水辺館前～北九州市八幡西区木屋瀬）

市・スポーツ推進委員協議会・市青少年育成市民会議



○体力テスト会（市体育館）

市・スポーツ推進委員協議会

○カヌー乗艇会（チューリップフェア時、彦山川で開催）

市・スポーツ推進委員協議会・市青少年育成市民会議

○ほっぷ・ステップ・キャンプ（福智山ダムでカヌー体験会）

市・スポーツ推進委員協議会・市青少年育成市民会議

○ふれあい&ニュースポーツ体験会（市体育館）

市・スポーツ推進委員協議会・市青少年育成市民会議・わくわくクラブ



○水辺館カヌースクール（水辺館前遠賀川）

特定非営利活動法人直方川づくりの会・スポーツ推進委員協議会

○市民総合体育大会

開催月	競 技	直方市体育協会加盟団体
6	水泳	水泳協会
6	空手	空手協会
7	柔道	柔道協会
7～9	軟式野球	軟式野球連盟
8	陸上	陸上競技協会
8	ソフトテニス（一般）	ソフトテニス協会
8	バドミントン	バドミントン協会
8	弓道	弓道連盟
8	サイクリング	サイクリング協会
8	バスケットボール（一般）	バスケットボール協会
8	ソフトテニス（ジュニア）	ソフトテニス協会
9	ボウリング	ボウリング協会
9	ゴルフ	ゴルフ協会
10	サッカー	サッカー協会
10	バスケットボール （ミニバスケット）	バスケットボール協会
10	山岳	山岳協会
10	硬式テニス	硬式テニス協会
11	ソフトバレー	バレーボール協会
3	卓球	卓球協会

体育協会加盟の各団体が運営を行い、会員はもとより幅広い層の世代にスポーツ参加の機会提供となっています。

○県主催 スポーツフェスタ・ふくおか「福岡県民体育大会」

毎年、8月：夏季大会（水泳競技）・9月：秋季大会

11月：市町村対抗福岡駅伝大会の3大会が開催されています。

平成30年度 直方市参加競技及び参加者

《夏季大会》

水 泳 競 技	参加者数（人）
少年男子	13
少年女子	12
一般男子	7
一般女子	5

8歳～72歳までの総勢37名（監督等含む）が出場。

《秋季大会》

競 技 種 目	参加者数（人）
陸 上	
一般男子・青年男子	2・2
壮年男子・壮年女子	7・1
ソフトテニス	
一般男子・一般女子	4・2
卓 球	
青年の部	6
壮年の部	8
バスケット	
一般男子	13
一般女子	8
青年女子	12

弓 道	
一般男子	5
一般女子	5
バレーボール	
一般男子	16
壮年女子	12

総勢 119 名（監督等含む）が出場。

《市町村対抗福岡駅伝大会》

種 目	参加者数（人）
福岡駅伝（9 区間 30.1 k m）	1 9

監督等含む 19 名が出場

昭和 3 3 年に第 1 回が開催、昭和 4 6 年までの第 1 4 回大会までは、福岡地区を中心に開催。第 1 5 回大会から県内 4 地区持ち回りでの開催となりました。平成 2 9 年度は 3 8 郡市が参加をしています。

本市では、バレーボール競技が第 1 回大会の青年男子で優勝（通算 3 回）、一般男子は第 6 回、7 回（S 38, 39）の連覇を含め 1 1 回優勝。

バドミントン競技は、一般男子が第 1 6 回（S 48）から 3 連覇（通算 6 回）、壮年男子が優勝 2 回。

バスケットボール競技・青年男子が第 3 4 回（H 3）大会優勝。

弓道競技では、一般女子が 2 回、成年の部が第 5 3 回（H 22）で優勝。

卓球競技では、壮年の部で 3 回優勝。



第 5 回 福岡駅伝大会

【市主催事業】

- ・弓道教室（初心者のための教室）
- ・ポスチャサイズ教室（姿勢矯正体操）
- ・おとな卓球教室（初心者のための教室）
- ・体力テスト会（20歳～65歳対象）
- ・こども陸上教室（小学生を対象とした教室）



弓道教室

【体育協会主催事業】

- 親子着衣水泳教室（人工呼吸やAEDの使用法等を学ぶ）
- Hiphopダンス教室（リズムに合わせて楽しく体を動かし体力増強）
- ヨガ教室（心身ともにリフレッシュ）
- フラダンス教室（インナーマッスルを鍛えダイエット、ストレス解消）
- キックエクササイズ教室（ボクサートレーニングのアレンジでダイエット・体力増強）
- グラウンドゴルフ大会（気軽に楽しめる個人スポーツ）
- Jr卓球教室（小学生を対象にした教室）



グラウンドゴルフ大会

【直鞍一周駅伝】

体育協会初の事業として、企画され1947年（昭22）2月23日に第1回大会を開催。大会は、中学生の部・高校生の部・一般の部と広範囲でしたが、一般参加が増えたため、現在は一般の部（高校生以上の学生は3名可）のみ実施しています。

当初は公認直鞍マラソンコースで行っていましたが、道路事情等に伴い変更され、ローカル駅伝にふさわしいように2市2町を通る38kmを襷でつないでいく歴史と伝統のある駅伝大会です。

（資料・体協50年史）

【総合型地域スポーツクラブ・わくわくクラブのおがた事業】

子供（小学生対象）

（クラブ設立準備委員会資料）

- ・ソフトテニス教室（講師：直方市ソフトテニス協会）
- ・バスケットボール教室（講師：直方市バスケットボール協会）
- ・サッカー教室（講師：直方市サッカー協会）
- ・硬式テニス教室（講師：直方市硬式テニス協会）
- ・卓球教室（講師：直方市卓球協会）
- ・ソフトバレー教室（講師：直方市バレーボール協会）



(2) 運動・スポーツ組織の状況

【直方市スポーツ推進委員協議会】

スポーツイベントや各種事業のエキスパートとして、スポーツへの助言だけではなく、活動全体にわたるコーディネーターとしての役割を担い、地域に出向いて手軽に取り組めるニュースポーツの普及活動や体力測定(保育園)、小学校での教育活動におけるカヌー体験など独自で事業を展開しています。

特に、平成13年頃よりカヌー事業に力を入れ、毎年、春に開催される、チューリップフェアにおいて、乗艇体験会を開催し、市内外の多くの方に乗艇していただき、親子での利用に人気があります。また、青少年市民育成会議と共同で開催している「カヌー川下り」は、水辺館前より北九州市八幡西区木屋瀬までの約4kmを小学4年生以上が元気に下っています。

【直方市体育協会】

1945年(昭20)年に創立。当初は、軟式野球、バスケットボール、バレーボール、体操、卓球、軟式庭球、陸上、山岳の8団体で構成。

以来70年を超える歴史をもつ協会は、長年スポーツの基盤育成に多大なる功績を持つ団体で現在、17団体の加盟があります。

競技スポーツとしての取組のみならず、各団体が独自事業を展開してスポーツ人口の基礎づくりを担っている団体です。

また、昭和37年に日本体育協会創立50周年の記念事業として創設されたスポーツ少年団は発育発達期にある子供がスポーツを継続的に行っていくための基盤組織として役割を担ってきました。

同協会は市の事業はもとより、県民体育大会(夏季、秋季)や冬季の福岡駅伝など競技としての振興発展に寄与しています。

【総合型地域スポーツクラブ・わくわくクラブのおがた】

平成17年に（仮）直方市総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会を立ち上げ、当初は大人対象の「卓球・ストレッチ」、子供対象の「卓球・ソフトバレー・バドミントン・ニュースポーツテニス」の種目でスタートしました。

平成19年より、子どもから高齢者まで「いつでも、どこでも、だれでも」が気楽にスポーツを楽しみ、地域住民の健康づくりとコミュニケーションづくりを目的とし、「わくわくクラブのおがた」の名称のもと直方市体育協会が主軸となり、独立した運営組織として現在に至ります。

（3）今後の取組として

直方市のスポーツ運営の中核を担ってきた「直方市体育協会」、多くの種類のスポーツへの参画機会を手助けしてくれる「総合型地域スポーツクラブ・わくわくクラブのおがた」、市の委嘱を受け、地域公民館や学童クラブなどでスポーツへの取り組みの手助けをするスポーツ推進委員協議会など役割に応じた活動をおこなっていますが、組織間の連携や交流など、まだ十分とはいえない体制となっています。

それぞれの目的や役割がうまく連結できる環境づくりが課題と考えられます。

（資料・第5次直方市総合計画後期平成28年～32年度）

3 施設状況について

(1) 市体育施設について

本市スポーツ施設は以下の6施設です。(平成29年度実績)

直方市体育館

○昭和48年10月、国体のバレーボール競技会場として開館。

年間利用者数 約70,000人。

◎アリーナ・・・バドミントン、卓球、バレーボール、バスケットボール、トランポリンなどで活用。また、空手や各種目の県、九州地区レベルの大きな大会や中学校、高校などの大会でも活用。



体育館正面



体育館アリーナ

◎卓球室・・・子どもから高齢者の方まで気軽に楽しんでもらう2室を設置。運動不足解消や定期的なサークルの活動場として利用しています。

◎トレーニング室・・・各種トレーニング機器による有酸素運動や筋力トレーニングなどで活用。トレーナーによる運動相談や助言など、初心者からリピーターまで多くの方が利用しています。



トレーニング室

直方市民体育センター

○昭和59年4月に開館。

年間利用者数 約19,000人

◎アリーナ・バドミントン、ソフトバレー、太極拳など多種目にわたり活用。また、柔道畳を半面に設置しており、空手や子供たちの柔道場としても利用されています。

直方市民弓道場

○平成元年に開設。体育センター敷地内に併設され、年間約3,500人の利用があります。初心者教室の開催や市民総合体育大会では高校生、一般での試合が開催されています。



体育センター



アリーナ



弓道場

直方市西部運動公園

○平成9年3月にテニスコート、多目的運動場、ゲートボール場が開設。

年間利用者数 約52,000人

◎テニスコート8面

・小学生から年配の方まで幅広い世代で利用があり、各種大会・県民体育大会や個人サークル、中学・高校の合宿など多くの活用があります。

◎多目的運動場

・主に小中学生のクラブサッカー大会や一般クラブサッカーチームでの大会、練習の場として利用されています。また、定期的にグラウンドゴルフの練習・大会や、陸上教室や少年野球大会など多種にわたり活用されています。

◎ゲートボール場

・主に市内高齢者で組織されたチームで活用されています。

※周回路では、多くの市民の方がウォーキングやジョギングなどで利用されています。



西部運動公園多目的運動場



西部運動公園テニスコート

直方市民球場・**直方中泉市民球場**（硬式、準硬式は不可）

○市民球場 昭和45年開場。

年間利用者数 約7,500人

○中泉市民球場 昭和60年開場。

年間利用者数 約5,400人

◎少年野球大会、サンデーリーグ、一般社会人大会や、中学校大会など多くの大会で活用されています。また、60歳以上で構成されたチームでの大会、練習など幅広い年齢層で利用されています。



直方市民球場



中泉市民球場

【今後の取組について】

施設全体が古く、特に体育館は半世紀近く経過し、老朽化しています。また、住宅地に隣接した環境や駐車可能台数不足も大会等での問題の一部となっています。

西部運動公園では、テニスコート面の摩耗や多目的運動場の砂ぼこりなど気温状況や散水状況面での課題も一部見られます。

野球場においては、駐車場不足や付帯練習場がないなど利用面での不便さも抱えています。

一部修理や器具の補修など適時改善はおこなっていますが、一過性の対応としての部分は否めません。

施設が点在し、総合的な利用ができない立地が、駐車場不足や相互間の利用促進を阻害している要因であるとも考えられます。

利用者が快適な空間でスポーツ、運動を行える環境を整えることが第一ですが、本市の財政運営においては厳しい状況にあり、老朽化施設の建て替えや改修はかなり難しいといえます。しかしながら、少しでも改善できるようスポーツ施設等に関わる国・県の助成金などの補助対象となるよう制度活用に取り組んでいく必要があると考えます。

施設の適正な維持管理については、定期的点検・診断を行い、修繕・更新等のコスト縮減を図り、長寿命化へつなげ、一元管理に基づき情報を管理してまいります。

(資料・第5次直方市総合計画後期平成28年～32年度)

(2) 小中学校の体育施設について

○小学校運動場・体育館利用

- ・野球、サッカーなどを中心とした屋外スポーツでの活用やバスケットボール、剣道など屋内種目で活用されています。
- ・ソフトバレー、バドミントン、バレーボールなど一般社会人が活用する施設として運用されています。

○中学校運動場・体育館利用

- ・部活動はもとより、ソフトバレー・バドミントン・バレーボールなど、一般社会人が活用する地域活動の拠点となっています。

【今後の取組について】

全国的な少子化傾向を受け、本市においても小中学生の運動クラブ、中学校の部活動の減少など、年々状況が厳しくなっています。

特に部活動において、複数学校による合同チームを結成しなければならず、単独校での参加ができない競技もみられます。

外部指導者の活用など対策が講じられてはいますが、今後は児童、生徒が運動・スポーツに参加しやすい環境づくりを小中学校、行政で連携し、構築していくことが必要と考えます。

現在、小学校のプールが老朽化しており、3小学校の水泳教室を民間の施設に委託しています。

また、本市の市民プールは老朽化により閉鎖（平成 25 年度）をしており、対策として市内在住の幼稚園・保育園児、小中学生へ近隣市町 6 施設の公営プール利用の助成制度を行っております。

しかし、多大なる建替工事費等により建設は厳しく、今後も民間の施設活用について検討してかなければならいと考えます。

(3) 河川敷を活用した運動・スポーツ

○サイクリングロードでは、秋から冬にかけて、マラソン・駅伝大会など小学生から大人まで多くの大会、イベントが開催されています。

河川敷ではクロスカントリー大会、少年野球、クラブサッカー大会等広大な敷地と駐車スペースを有し、市内だけでなく、市外の方々も利用されています。

また、パラリンピックでも活躍された洞ノ上さんも、車椅子マラソンの練習場として利用されています。

多種目競技での活用の場のほか、ファミリーでの軽運動やジョギング、ウォーキングと幅広い活動の場として定着しています。

夏場を中心に、遠賀川でカヌースクールが約半年間行われ、多くの小学生を中心に運動だけでなく、自然景観、水辺の生き物など、環境学習の一環としても利用されています。



遠賀川河川敷、サイクリングロード

(4) 地域公民館・集会場の活用

○市内各地域の公民館などは、子供のスポーツ、一般の運動教室、高齢者の健康づくり運動など、気軽に取り組めるニュースポーツでの交流の場として利用されています。

今後は、単独地域だけに留まらず、隣接地域との交流や世代間の交流ができる身近な運動・スポーツの場としての機能を拡大していく必要があると思われます。

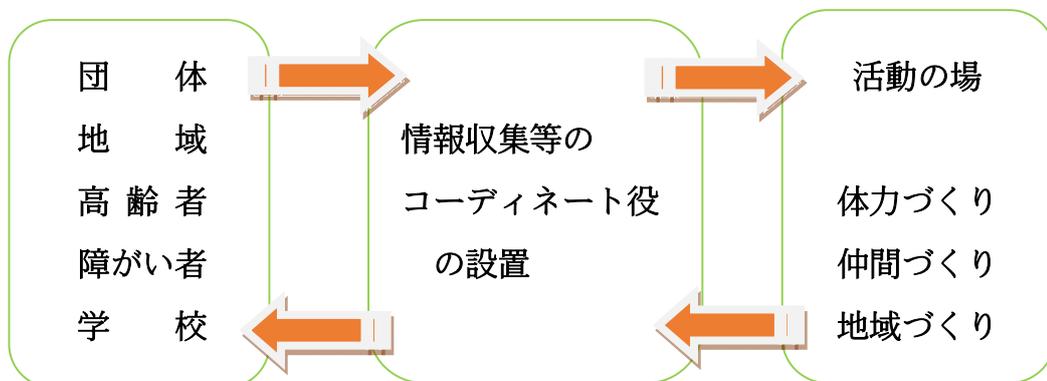
第3章 基本的方向性

1 情報提供の拡充

いつ、どこで、どのようなスポーツを行うことができるのか、また、どのような人や団体が参加できるのかといった情報の提供が必要になります。

現在、ホームページ、広報誌の折込などを行っていますが十分とはいえません。各種団体や地域コミュニティを活用したクチコミも有効な手段であり、団体・地域・学校など相互間の情報伝達を拡大していくことが重要と考えます。

各世代が参加できる情報発信の構築



2 子供が参加できる環境づくり

生涯にわたって運動に親しみ、実践する意欲や態度を育むためには、体を動かすことの楽しさや喜びを味わうことが大切であり、幼児期から基礎体力や運動機能を発達させることにつながっていきます。

「楽しい運動あそび」を通じた体力づくりが運動・スポーツを継続させるスタートではないかと考えられます。体を動かす＝楽しさへとつながっていくことを啓発できる環境づくりを目指していきます。

(1) 『総合型地域スポーツクラブわくわくクラブのおがた』の活用

現在、子供を対象として自由な選択で楽しくスポーツに参加する機会提供を行っている自主運営団体ですが、子供だけでなく大人を対象として、参加機会を拡充していくことを目標としています。

更に、子供と大人が同じ運動・スポーツの場で体を動かし、コミュニケーションづくりなど多くのことを学ぶことのできるクラブへと発展していくことへつながっていきます。

(2) 『トップアスリート事業』

本市では平成29年度からトップアスリート事業に取り組み、株式会社ギラヴァンツ北九州と連携し、コーチ・選手を講師として技術指導や練習、試合への取組方など多方面から支援する事業を行っています。

また、ギラヴァンツ北九州は独自の地域支援事業で小学校児童へのイベントを開催し、運動の楽しさ、喜びなどを実感できる活動を行っています。



新入小学校での事業

(3) 『学童クラブへの取組』

少子化傾向のなかにあっても共働き世代が多く、学童クラブ所属の児童が増えています。

直方市スポーツ推進委員協議会では、一部の学童クラブからの要望により、ニュースポーツやスポーツレクリエーションなど児童の運動不足解消に取り組んでいます。

今後は、子供たちが気軽に楽しめるスポーツ環境づくりを進め、市内学童クラブ全体と協同できる体制づくりも推進してまいりたいと考えます。

3 障がい者・高齢者の運動・スポーツの拡充

(1) 障がい者の運動・スポーツについて

平成29年、第4次直方市障がい者福祉基本計画において、本市福祉課ではスポーツ支援の一環として「ボウリング大会」の開催や「よこいと運動会」など、本市身体障がい者福祉協会の共同参画により開催されています。

体育館では、市内外の団体から、バスケット、ソフトバレー、ニュースポーツなどの種目で利用されており、楽しい時間を過ごされています。

高度な専門的種目だけでなく、日常的に運動をとおして快活な生活ができる環境づくりを促進していく必要があります。

地域での行事やイベントなどでスポーツ推進委員や「わくわくクラブのおがた」と連携し、ニュースポーツを中心とした推進に努めたいと考えます。

(資料・第4次直方市障がい者福祉基本計画平成29年～30年度)

昨年より福岡県民体育大会において、障がい者スポーツの種目が導入され、少しずつですが、普及に向け大会が開催されています。

近隣では飯塚市で国際車いすテニス大会など大規模な大会が開催されていますが、本市では障がい者スポーツ部門が他の自治体の取組に追いついていないのが現状です。

身近で見て、感じることでできる舞台を目指し、本市でもバドミントン競技などの開催について県に働きかけを行っておりますが、他の競技についても同様の働きかけを行うことが大切と考えます。

また、各運動種目の練習の場や大会場所の確保も重要と考えられ、近隣市町の取組を参考にし、本市の施設状況に合わせ考えてまいります。

【本市のアスリート】

洞ノ上 浩太 (ほきのうえ こうた) 氏

2002年(平成14年)に車いすマラソンハーフの部でデビュー後、2006年(平成18年)には極東・南太平洋障害者スポーツ大会の日本代表となり、フルマラソン金メダルを獲得。北京パラリンピックで入賞。

2011年(平成23年)にはフルマラソンの日本記録を樹立。以降、リオデジャネイロパラリンピックでも入賞され、日本の第一人者として活躍されています。また、筑豊の車いすレーサーチームを主宰し、次世代の人材発掘にも取り組むなど多くの実績を挙げられています。

倉田 和則 (くらた かずのり) 氏

第18回全国障がい者スポーツ大会の陸上競技「50メートル」と「スラローム」に出場され両種目で優勝。

スラローム競技は、全長30mのコースに置かれた赤と白のピンの間を縫って走り、タイムを争う種目です。また、他の様々な大会で新記録を出すなど輝かしい戦績を誇る選手です。

(2) 高齢者の運動・スポーツについて

平成29年度の本市の第7次高齢者保健福祉計画では、「健康状態が良好でないことは、心の健康状態にも悪影響を及ぼすという結果が得られたことを踏まえ、生活機能低下を防ぐための健康づくりの推進と生きがいづくりに取り組むこと」を提唱しています。

「人生100年時代」を目指し、健康で生きがいのあるライフスタイルの構築へ向け、運動・スポーツの重要性は欠かせないものになっています。

体育協会が主催する各種教室では、多くの方に参加をいただき健康に対する運動の重要性を感じています。

『無理なく、楽しく、そして継続できる』運動・スポーツを推進できるよう、また、協会加盟の団体、「わくわくクラブのおがた」との連携、地域でのスポーツ推進委員の活動によるニュースポーツの普及促進など環境づくりに取り組んでまいります。

また、地域で盛んに推進されている「いきいき百歳体操」は各団体への参加促進、継続、そしてリーダーの育成につながるよう取り組んでおられます。

自らの参加だけでなく、地域で継続していくために、地域リーダーの養成も重要と考えられ、更に市全体へ普及するよう目指してまいります。

(資料・第7次高齢者保健福祉計画 2018年～2020年度)

第4章 計画の展開

1 推進体制

計画の推進にあたっては、市民・地域・スポーツ関係団体・学校・行政などが協働し、それぞれがスポーツ推進の担い手となって取り組むことが重要になります。

計画の策定を基に、市全体で市民一人一人が幼少期から高齢期にいたるまで、年齢・体力に応じ、身近な場所・地域で生涯をとおして気軽にスポーツを楽しむことができる環境の構築を目指し、できるだけ早期に、連絡協議会等の設置や、各組織・各団体が相互に連携がとれる体制づくりの推進にあたっていきます。

2 計画の進行管理

計画を推進するとともに、進行過程を確認するため、年度ごとに状況把握を行い次年度へつなげるため、競技スポーツ、障がい者スポーツ、幼児期から高齢者までの生涯スポーツなど、各世代、団体との連携を図りながら管理を行っていきます。

また、施設管理における、手続きの簡素化・使用料金の見直し・施設の改善等においても連動して検討してまいります。